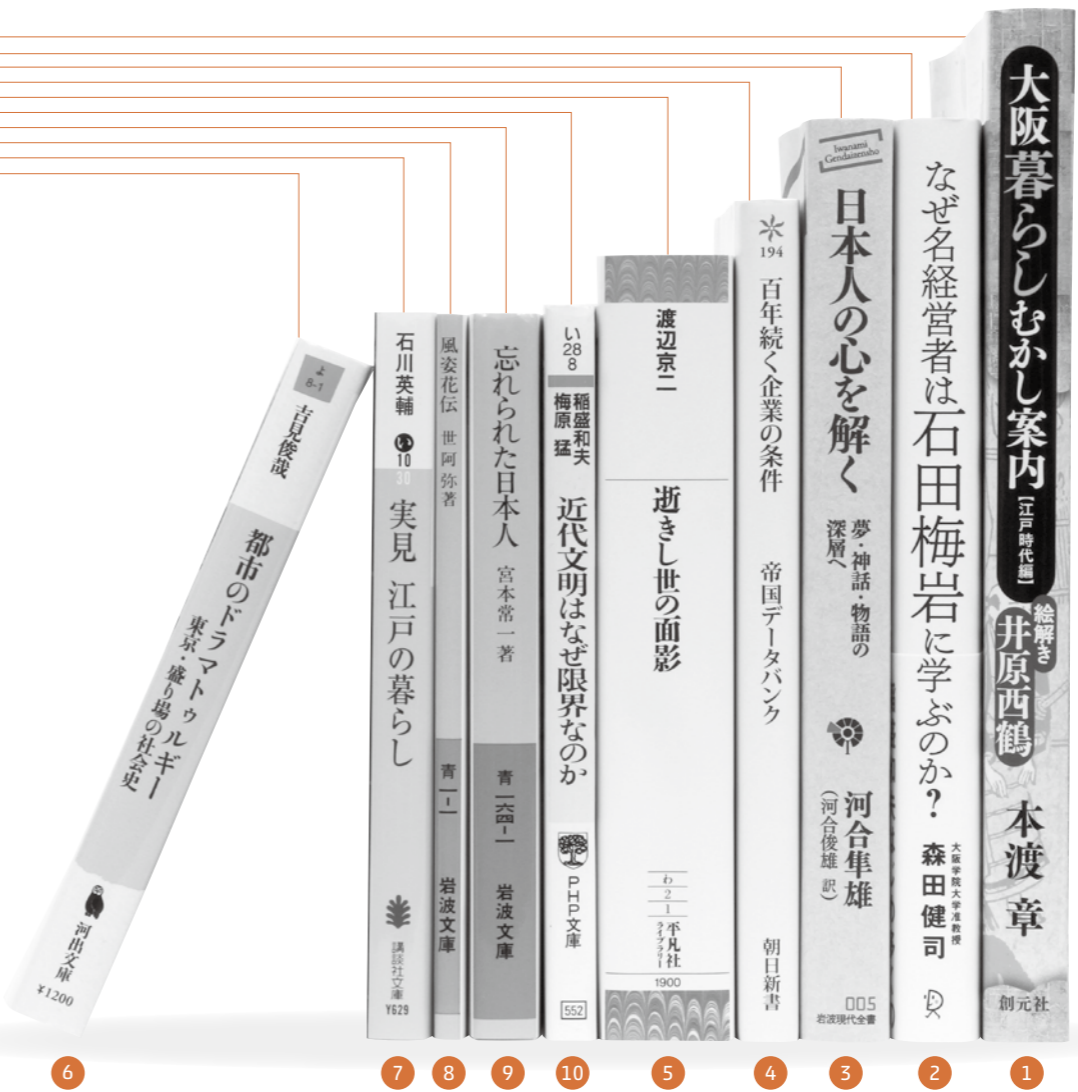




Special Feature The Power of Traditional Life Part 7

# 暮らしの 知恵を 考えるための 10冊

昔の暮らしを見つめ直した本号の特集から、「これからの暮らし」のヒントは見つかったでしょうか。老舗企業が示した守ることと挑戦すること、再現された江戸時代の町並みを、見て、聞いて、触って実感することなど、現代の暮らしに反映できることは、まだまだたくさんあります。そういった、見過ごしていた「財産」に気づくための、ヒントとなる10冊を選びました。



Number 1  
『大阪暮らしむかし案内』  
江戸時代編  
——絵解き井原西鶴——

井原西鶴の浮世草子とその挿絵をもとに、「絵解き」の手法によって江戸時代の庶民の生活や人間模様を生きたと描き出す、むかしの暮らし案内書。原文と現代語訳、絵解きを巧みに交えながら、お金の話から四季の暮らし、男女の色恋まで、大阪のかつての文化を豊かに読み解く。「むかし案内」シリーズ第6弾。

本渡 章著  
創元社／2012年



Number 2  
『なぜ名経営者は石田梅岩に学ぶのか?』

稲盛和夫氏はじめ、多くの経営者も注目する江戸時代の思想家・石田梅岩を「江戸時代のドラッカー」と称し、その考えの現代性に着目するビジネス書。「人間の本性とは何か」を問いつつ、「勤勉」「正直」など、平易な言葉で商いを語った梅岩の教えこそが、日本の近代化や驚異的な戦後復興の土台となったと説く。

森田 健司著  
ディスカヴァー・トゥエンティワン／2015年



Number 3  
『日本人の心を解く』  
夢・神話・物語の深層へ』

日本におけるユング心理学の第一人者が、日本の神話や古典から、日本人の心の深層に迫る。時空を超え死後の世界をも「夢」とする『宇治拾遺物語』、男女の性役割を交換する『とりかへばや物語』など、古典に描かれてきた日本人の心を解き明かし、現代に生きる日本人のあり方を問い直す一冊。

河合 隼雄著  
岩波現代全書／2013年



Number 4  
『百年続く企業の条件』  
老舗は変化を恐れない』

日本でひときわ強い存在感を示す「老舗」。その正体に迫るコンパクトな一冊。企業情報の専門家が、財務、歴史、社訓などを徹底分析。踏襲することと挑戦することを、慎重に、かつ大胆に選別する老舗企業の姿勢を浮かび上がらせる。老舗が今に伝えることとはどのようなものなのか、その秘密をたどる。

帝国データバンク史料館・産業調査部編  
朝日新書／2009年



Number 5  
『逝きし世の面影』

幕末・明治年間の来日外国人による記録を収集・精査することによって、西洋化以前の日本の在りし姿を鮮明に描き出した一冊。私たちが失ったものとは、日本の近代化とは何だったのか。信仰から性、労働、子どもの世界まで、異邦人の視点から先入観を介さずに捉えられた日本文明の豊かさが今、驚きとともに甦る。

渡辺 京二著  
平凡社ライブラリー／2005年



Number 6  
『都市のドラマツルギー』  
東京・盛り場の社会史』

都市を、「場所」としてではなく、作り手と受け手の間でコミュニケーションが交わされる「出来事」「劇場」と捉え、以後の都市論、文化研究に影響を与えた一冊。作り手の一方的な押し付けではなく、盛り場に集まる人びとが織りなすドラマを含有してこそ、都市のダイナミズムは生まれることを教えてくれる。

吉見 俊哉著  
河出文庫／2008年



Number 7  
『実見 江戸の暮らし』

現代日本に生きる私たちの日常は、「昔」とどのくらい繋がっているのか、あるいはかけ離れているのだろうか。本書は名所図会や絵草紙をはじめとした図版を豊富に使い、江戸庶民の実生活を解く。食や着物、お金、時間などをキーワードとして章立てし、目で見て「昔の暮らし」を体験できる好著。

石川 英輔著  
講談社文庫／2013年



Number 8  
『風姿花伝』

世阿弥が、亡き父親阿弥の教えに基づき著した本書は、能楽の優れた芸術論であり、後継者に伝授する体系をまとめた理論書でもある。「初心忘るべからず」などの言葉から見る役者の心構え、年齢別の教育論、役別の演技論、能の本質たる「花」の把握など、現代の人材育成にも通じる世阿弥の視点を感じ取れる。

世阿弥著  
岩波文庫／1958年



Number 9  
『忘れられた日本人』

著者は「旅する巨人」と言われ、日本中をくまなく歩いた民俗学者。膨大な記録と写真群は、日本人の過ごした豊かな時間に満ちていると評される。本書は辺境の地で黙々と生きる日本人の存在を、歴史という舞台に浮かび上がらせた宮本民俗学の代表作。確かにあった暮らしの文化を再確認するに最良の書だ。

宮本 常一著  
岩波文庫／1984年



Number 10  
『近代文明はなぜ限界なのか』  
人類を救う哲学』

揺るぎない信念を持つ経営者と、独自の境地を開く哲学の泰斗が、経済成長至上主義の次に来るべきものを語った対論。人間の持つ根源的な可能性を信じつつ、「進歩」から「循環」へ、「憎しみ」から「慈悲」へと、人びとの意識が転換することが大切であると説く。「新しい文明の創造」を探求した警世の書。

稲盛 和夫、梅原 猛著  
PHP文庫／2011年